2020年2月14日			
差枚	-787枚	RANK	B

実戦機種

パチスロダンまち、パチスロ 犬夜叉、パチスロ コードギアス 反逆のルルーシュR2、鬼浜爆走紅蓮隊 愛

実戦レポート

テンションが上がったり下がったり下がったりとジェットコースターのような収支模様だが、ちょっといい感じの勝ち方ができると「な～んだ、こうやればいいのか」とすぐ極めた気分になれるのがパチンコ・パチスロの良いところ。2日前、人気店で抽選番号が悪かった中で快勝を収めた、その手応えがまだ残っているうちに迎えた本日の実戦。約70人中「31番」というほぼ真ん中の番号を引いた時点では、まぁどうにかなるやろ～的な余裕ムードのスタートとなった。

しかし、入店後に最初の台を選ぼうとして、打ちたい機種・高設定が入りそうな機種がほぼ埋まっている状況を見て、2日前とは事情が違うことに気付かされた。1機種あたりの台数が少なく、スロットの総台数が100台程度で全体を見回るのに1分もかからないこの戦場では、全台高設定機種狙いや特定末尾の高設定狙いはかなり「朝イチ勝負」になりかねない。たとえ空いたとしても、すぐに他の誰かにチェックされ、先に奪われてしまう可能性が高いからだ。

となると、やはり活路を見出せるとしたら…バラエティコーナーか。選んだのは、奇しくも2日前と同じ「パチスロダンまち」。やはり低設定でも甘めのスペックというのが拠り所だが、正直、高設定が入るかどうかという点では、シマで再導入されたばかりだった2日前のお店より厳しいと言わざると得ない。チラチラと周囲を見回しながら打っていると、バラエティで狙っていた台の一つが思ったより早めに空いたので、すぐに移動となった。

2台目に選んだのは、直近の入替で5スロから20スロバラエティへと復帰した「パチスロ 犬夜叉」。こういった店内での配置換えは様々な意図があるだろうが、少なくとも入替直後のこのタイミングならそう悪い扱いはしない可能性もあるだろう、という消極的な前向き思考だ。完全に初打ちだったので色々と戸惑いながら打ち進めると、まぁ人並み程度のボーナスとARTのヒキを発揮できて、設定推測要素もそこそこ良い方の数値で約500枚をゲット。このまま順調に出続けてくれれば「パチスロ楽しい～！」となるのだが、予想通り徐々に、通常時の要である高確移行率・CZ突入率などが下がり始めた。こうなると高設定域を指していた他の数値も「たまたまのヒキじゃね？」と思えてくる。それほど大ケガを負っていない今のうちにヤメておくか…。で、次に移動した「パチスロ コードギアス 反逆のルルーシュ R2」は逆に、高設定っぽさだけはかなり手応えがあるのに、とにかく出玉が出ん！　展開に耐えかねて移動した「鬼浜爆走紅蓮隊 愛」は、これまた初打ちの機種で、よく分からないけど高設定ではなさそう…。で、ふと見ればヤメた犬夜叉が4000枚ですって。オレは一体いくつ高設定を捨てたのだろう…B級。